



増井社長

東洋ビューティ

OEM

社内の意識改革を進めて成長持続へ 佐賀工場は「地域と共生」掲げ今春竣工

化粧品OEM/ODM大手の東洋ビューティは、2018年度上期の売上高が前年同期比2ケタ増で好調に推移している。業績好調が続く状況下で、増井勝信社長は社内の意識改革に踏み込む。

——日本製コスメの人シア市場へ販路を広げる。シーシングの活用が今後さらに広がる中で、当社自身も業務効率化が課題となり、製造、さらには開発のアウトソーシング化、職を強く持ち、市場の変化に対応できる組織づく

メーカーは中国を軸にア

りを推進していく。

——17年6月に社長に就任されて1年半、意識して取り組まれてきたこととはありますか。

増井 企業理念の浸透

など社員の意識改革を強く意識して進めている。

好業績が続いて、社内

に気の緩みが生まれる時期であると感じていた。

当社は約10年で売

上高が2倍以上伸び、それにともない20～30代を中心に社員を増やして

きた。当社の厳しい時代を知る社員は少なくなっ

ている。

また、組織が大きくな

ったことで、部署単位で

も社員の意識のズレを感じようになっていた。

引き続き、社内体制の整備・充実化に取り組む、社員が一回り大きく成長できる環境を整えていく。

——対外的な話題では、19年4月にいよいよ佐賀工場が稼働します。

増井 佐賀工場が稼働することで生産能力が増大するのは間違いない

が、単なるモノづくり工場に収まるつもりはない。

地域社会との共生を掲

げて、雇用や見学の受け入れのほか、体験型ミュー

ジウムを併設して地域に根ざした工場を目指し

ていく。